HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	10.ピアサポーターの思い ：(1)人見知りピアサポーターのこれから
Author(s)	川原, 里奈
Relation	北海道大学ピアサポート活動報告書（平成28年度版）p.59-60
Issue Date	2017-03-31
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/65090
Type	report
File Information	10HokudaiPeerSupport_H28-01.pdf

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

10. ピアサポーターの思い

（1）人見知りピアサポーターのこれから

川原里奈[1]

私は 2016（平成 28）年度 4 月 1 日から新しくピアサポーターとして約 1 年間活動した。ピアサポート室は一年生のころに何度か使ったことがある。ピアサポート室での過ごし方は、主に空きコマの時間の暇つぶしであったり、課題の作成であったりした。利用者としてのピアサポート室のイメージは「いつでも入って来られて、なんとなくいることのできる場所」であった。大学は授業がある時以外だと、どうしても居場所がなくなってしまう。高校生までは教室で日々を過ごしていたので、大学生になりたての自分は、場所がなくなるとこうも不便なのかと感じていた。そんなとき、ピアサポート室は自習、友達とのおしゃべり、お昼寝など自由度の高いことができる場所として大変落ち着く場所であった。また、ピアサポーターは大学の先輩たちであり、自分に近い立場の人だったというのも落ち着く要因であった。

しかし、サポーターの人と話したいと思ってもなかなか話しかけることができなかった。気軽に話してと書いてあるけど、本当だろうか？何を話せばいいのだろうか？話しかけてほしいけれど、話しかけられて何を返せばいいかわからない…、本棚の近くに行ったら、サポーターの人と近いし話しかけられるかな、不安だな…と、喋ってみたいけれども怖いといったなんともいえない感情を持っていた。一年生の時は特にピアサポーターとの関わりを持つことなく過ぎていった。

二年生になって、何か新しい事を始めたいと思ってピアサポーターの募集に応募した。この時初めてピアサポーターの方々と話すことができたように思う。話してみると人の話を聞くのが上手く、気さくな人が多かった。一年生の時にもっと話しておけばよかったなと思った。いざピアサポーターとして活動すると、今度は自分から利用者さんたちに話しかけられないことが分かった。私のように話しかけられると困る人もいるんじゃないか、今忙しいのだろうか、何を話せばいいのだろうか…。いざ、話しかけてみても、今、話しかけてよかったのだろうか、この話題で良かったのか、相手は迷惑じゃなかっただろうか、楽しかっただろうか…。意外と難しい。元が話しかけられないで悩んでいた利用者だったので、今度は話しかけるのが苦手なサポーターになってしまった。利用者側でもサポーター側でも、結局は同じ人間なので立場が変わったからといって性格は変わらないのだ。

世の中には、私のように人見知りの利用者やピアサポーターがいることであろう。では、人見知りの私達はどうするべきか？思わず会話した後に一人反省会を開いたり、話せなくて悩んだり、言いたかったけどタイミングを逃したり、こんな経験を持つ方もいるのではないだろうか。結局は、無理には変われないし、無理に変えようとしなくてもいいと

[1] 北海道大学教育学部 3 年

私は考える。時に一人反省会も開く。開きながらも次はどうしようか考えたり、あいさつは欠かさないでおこうと思ったり、そういう小さなことからはじめていけばいいのではないか。脱皮のごとく変わることはできないけれども、些細な心遣いから利用者さんとの交流が図っていけるのではないか…。これが一年間の活動を通して気づいたことである。人によってはなんだ、そんなことかと思うかもしれないが、これが意外と重要である。来年度は、ほんのちょっと思い切ってみる、そんな気持ちで活動していきたい。

（2）かつての非利用者からみたピアサポート室

春名恭太朗[1]

1. はじめに

筆者は、ピアサポーターとなる以前には 1 度もピアサポート室を利用していなかった。他のサポーターのほとんどが元々利用者である中、サポーターの公募を目にして応募したことをきっかけに、はじめてピアサポート室にかかわるようになった。

通常、どのような機関でも活動の報告書にその機関を利用しなかった立場から記述がなされることはないと思われるが、あえて本稿では利用しなかった立場から本ピアサポート室の活動を分析し、ピアサポート活動の室外への発信について再考していく。

2. 本論

2.1. 利用方法について

ピア外部の人にとって、サポーターがどのような活動をしているのかがはっきりとはわからない状況にあるといえる。

初めて使う際は、利用時に声をかけなければならないのか、かけなくてもいいのかわからなく、使い方がわからないと利用に踏み出しづらいと思われる。見知らぬ人ばかりの空間に入って行くのには敷居の高さを感じる学生も存在し、筆者自身、この理由によりピアサポート室を利用しなかった、できなかったといえる。

また、外から見ただけでは利用用途がわかりにくく、サポーターもどのようなことをする人かがわからなかった。例えば、他の機関のスタッフの業務内容はその場にいるスタッフが利用者に対し行う業務は、学生相談室であれば学生からの相談への対応、図書館であれば、利用者への図書の貸出や資料調査の支援といったことで、その機関の名称等からその機関を利用せずとも容易に推測が可能である。これに対しピアサポーターは、その名称からはどのようなことを行うスタッフなのか機関の名称から推測することは難しいと思われる。

また、他の機関では学生が自発的に相談するのを受け身的に待ち、対応する業務内容とな

1 北海道大学文学部 3 年